

# Q&A

## 進路指導の ? に答えます

高校現場の「今」を知る FAQ

ひと昔前とは大きく異なる高校の進路指導の実態。大学関係者から寄せられた疑問を高校関係者に聞いてみた。

### Q そもそも「進路指導」とは何を指す？

**A** 高校卒業後の道筋、生き方を考えさせる指導全般が「進路指導」と呼ばれている。大学受験に関する指導はその一部だ。学力を向上させる「学習指導」、日常のルールを覚え行動を律するための「生活指導」なども深く関わる。

### Q どんな組織体制で行われているのか？

**A** ほとんどの高校には、各学年の教員（学年団）が数人ずつ所属する「進路指導部」などという組織があり、高校全体の進路指導方針を検討している。大学が行う高校訪問や入試説明会には、進路指導部の教員が対応することが多い。

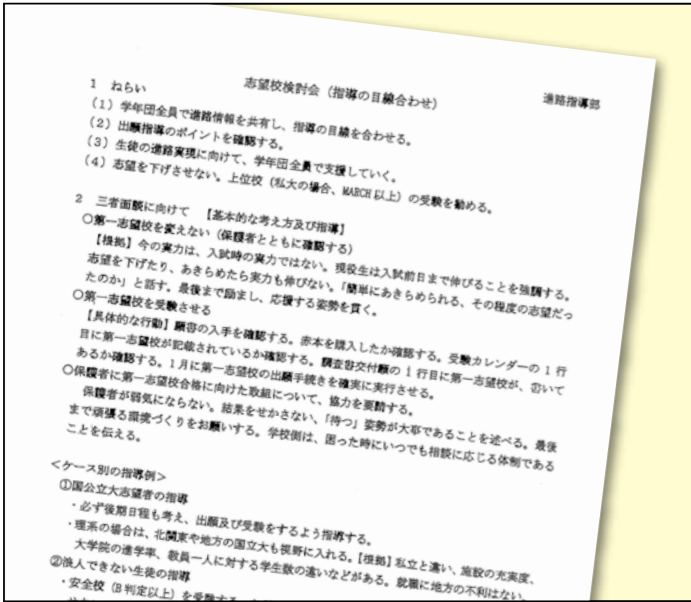
### Q 偏差値に基づいた大学選びをさせているのでは？

**A** 高校教員は、生徒が勉強し、点から最終的な出願校を決める際に参考にされている。もちろん、高校教員も偏差値の高い大学に行けば生徒は幸せになると単純に考えているわけではなく、また、生徒も進路観が多様化している。仮に偏差値に差がある2大学に合格し、低いほうの大学への進学を生徒が希望した場合、納得できる理由があれば、教員は喜んで送り出すはずだ。

### Q 高校は何をもって進路指導の「成果」としているのか？

**A** 多くの高校では送り出した卒業生が充実した生活を送っていることが進路指導の「成果」だ。卒業生に大学入学後の体験談や大学紹介を在校生向けの「進路の手引き」に書いてもらったり、大学の魅力を講演させたりしている高校は多い。今回紹介した事例のように、統計的な調査をしている高校も出てきている。母校に遊びにきたついでに、教師に大学の話をしにいたり、近

ある公立高校の進路指導資料



て教科学力を高めること、その過程で目標達成に向けて計画を立て、勉強に取り組み、学習習慣を身に付けることを強く願っている。「目標に向かって努力をする、そのプロセスこそが自信をつける」という価値観を持っている。つまり、生徒には社会で活躍できる力を学習を通じて養成してほしいのだ。

この背景には最近の生徒の大学選びの「安・近・短」志向への憂慮がある。偏差値は、高い目標を掲げさせることによって学習への動機づけを行うための目標の目安

### 【進路講演会】

高校が生徒や保護者を対象に行う、進路選択に役立つ講演。外部講師を招くことが多い。入試の専門家が大学受験について解説するもの、職業人が自身の人生について語るもののほか、卒業生が受験体験や大学生活を語る講演もある。

### 【ガイダンス】

高校が企画するガイダンスは通常、学年単位で年に数回行われる。文理選択や科目選択に関する注意、入試動向の解説、出願校の選び方など、その時期に必要な情報を教員が提供する。また、企業が行う学校選びに関する進学関連イベントもしばしばガイダンスと呼ばれる。

### 【新入生オリエンテーション】

入学者同士の交流や教育方針の説明を目的とした行事。高校での学習のしかた指導や3年間の進路指導の流れ、卒業生の進路の紹介などを行う。

### 【二者面談】

担任と生徒による面談のこと。年に数回の面談時期が設定されているが、それとは別に生徒から面談の希望が出ることもある。学習の進捗、進路の検討状況の確認などが中心。

### 【三者面談】

担任、生徒、保護者による面談。各学年の1学期中盤〜後半、および文理選択や出願校の決定前などに行われることが多い。内容は二者面談と変わらないが、特に3年次の三者面談は、志望校を三者が合意する機会として重要な意味を持つ。

### 【志望校検討会】

学力分析会と同様の集まりだが、各生徒の志望校を吟味することに主眼が置かれる。模試や実力テストの成績の推移、授業態度、部活動の様子などさまざまな観点から、第1志望校の妥当性、併願校を含めた受験戦略、以降の学習などについて検討する。話し合った結果は、後日、担任が生徒に伝える。特に3年次には複数回行われ、高校が多い。

### 【ホームルーム】

担任によるクラス全体への連絡、指導、生徒同士の話し合いなどが行われる場のこと。10〜20分程度の短いホームルーム(HR)、SHR(ショートホームルーム)などと略される。授業時間を使った長いホームルーム(LHR)ロングホームルーム)がある。このホームルームの時間や「総合的な学習の時間」を使って、受験情報誌を使った大学調べ、職業調べなどの進路指導が行われることも多い。

### 【出願指導】

主に担任が生徒に行う、どの大学に出願するべきかのアドバイス。ガイダンスや二者・三者面談のほか、日々のコミュニケーションを通して行われる。最終的に決めるのは生徒だが、現在は教員の発言の影響力が大きくなっている。

### 【第一志望宣言】

2年次後半から3年次の1学期ごろに多くの高校が行うようになった取り組み。生徒が第一志望の大学・学部・学科とその志望理由を用紙に記入し、教員や保護者に提出する。中には校内に掲示する高校も。その大学をめぐらず自覚を持ち、受験を乗り切るためのモチベーションを高める狙いがある。

### 【入試科目一覽】

大学の募集単位ごとの入試科目、配点などの情報をまとめた冊子。例えばベネッセ・進研アド発行の「受験校決定PERFECT BOOK」など、高校では出願校の最終決定に向けた指導に活用する。

### 【学習(勉強)合宿】

宿泊施設等に滞在し、泊まりがけで集中

## 知って おきたい 進路指導 用語集 20

【学年集会】 「ガイダンス」とほぼ同義だが、学年集会はより日常的なテーマが扱われ、ガイダンスよりも頻繁に開かれる。定期テストに臨む姿勢、夏休みの過ごし方、部活動と勉強の両立など、教員が話す内容は進路指導に限らない。

### 【保護者会】

生徒の高校生活支援を目的とした保護者による組織。または高校が保護者を対象に行う集会のこと。進路指導に関する集会は学年ごとに行われるが、普通で、学習状況の報告、家庭でできる学習サポートの紹介、専門家による入試動向や進学費用の解説などがテーマになる。

### 【文理選択】

多くの高校は2年(一部は3年)進級時に、文系クラスと理系クラスに分かれる。どちらに進級するかを選ぶ文理選択は、高1の1学期からガイダンスや希望調査が行われ、年内には最終希望を提出する。進級後の授業科目は、文系・理系型の受験科目を想定したものである。一般的にクラスの変更はできないため、選んだ方が異なる型で受験する場合(文転・理転と呼ぶ)は、不足する科目を独学で勉強することも多い。

### 【科目選択】

文系・理系どちらに進むかを1年次に決めたらうで、どの科目を履修するかを選ぶこと。主に、理科と地歴・公民で選ぶ科目が焦点となる。2年次の冬に決定し、3年次からの時間割に反映されるケースが多い。大学によって受験科目が異なる一方、進級後は授業科目の変更ができないため、生徒は2年生のうちに入校校をある程度想定し、受験可能な科目を調べてから履修する必要がある。

### 【学力分析会】

模試や実力テストなどの結果を基に、学年全体、クラスごと、生徒ごとの学習状況を分析し、指導方針を検討する場のこと。進路指導部や担任により、学年ごとに行われることが一般的。分析結果は、その後の授業運営や各生徒へのアドバイスに生かされる。

### 【実力テスト】

日頃の学習成果を測るテストで、定期テストより出題範囲が広い。実施の趣旨は模試と同じだが、実力テストは一般的に自校の教員が問題を作成する。ただし高校によっては、大学受験を見据えてより客観的な全国区での実力を測るため「スタディーサポート」(ベネッセ)というアセスメントや模試を実力テストとして活用しているところもある。

### 【学習指導】

成績の向上を目的として行われる指導。生徒への指導の内容を「進路指導」や「生活指導」と区別する意図で用いられる。「教科指導」とほぼ同義だが、学習指導は時間の使い方や取り組み姿勢なども含むものに対し、教科指導は教科の内容に関する指導だけを指す。

### 【合格体験記】

志望校合格を果たした生徒(もしくは大学入学後の学生)が、受験を振り返って書くレポート。志望校の選び方、受験勉強のノウハウ、苦しい時期の乗り越え方、合格の喜びなどが報告される。ふさわしいと考えられる合格者に、高校が執筆を依頼する。身近な先輩の努力の記録は、後輩生徒の意欲に強い刺激を与えられるため、進路指導に欠かせない素材となり得る。体験を文章にだけ残すだけでなく、ガイダンスなどの機会に卒業生自身から発表させる高校も多い。

### 【受験生0学期】

2年次の3学期のこと。3年次の1学期には、受験学年のスタートとして学習姿勢や意識を切り替えるよう指導が行われるが、実際には即座に切り替えられる生徒は少ない。そこで3年次に進級する前から徐々に受験生モードへの移行を始めるため、この意図を、生徒や教員に浸透させるためにつくられた言葉、全国的に普及している。

# 進路指導の？に答えます

年はSNSで卒業生と教員がつながっていたりもする。このように卒業後も母校や教員とつながる生徒が多い。高校の指導の成果ともいえるだろう。

## Q 志望校決定までの指導の流れは？

**A** 志望校を選ぶアプローチとしては、①将来やりたいことを探し、②近づくための学問を見つけ、③それが学べる学部・学科を探し、④その学部・学科がある大学を選ぶという流れが一般的で、①～④をおよそ高2の冬ごろまでに行うパターンが多い。ただし、近年はなるべく早めに志望校を仮決めさせる高校が増えてきている。目標がないと、努力すべき方向性と量の目安が見えないからだ。

高1生はあまり大学名を知らないため、当初の志望校には地元大学か全国の有名大が挙がることが多い。その後、目標探しや大学調べを進める過程で志望校は入れ替わっていき、高3の夏～秋には出願校がほぼ確定する。高3の10月の模試に記入された私立大の志望校は、40～80%の生徒が出願するというデータもある（進研アド調べ）。

大学広報の視点に立つと、志望校の候補としてリストアップされ、私立大については、入試日程や費用の都合さえつければ、合格可能性が低くても受験させることが多い。というのも、現役生の入試直前期の実力の伸びが急激であるため、最後に受けた模試の判定が「D」や「E」でも合格を果たす例もあるからだ。

## Q 一般・推薦・AO入試の使い分け方は？

**A** 一般入試を勧める教員が多い。目標に向けて努力する経験を積ませるため、高3の最後まで勉強する方式が好まれるからだ。教員はコツコツ勉強してきたタイプの生徒が推薦・AO入試を希望した場合は賛成するが、単に楽に合格したいという理由で希望する生徒に対しては反対することも



## Q 大学選びに関する教員の指導方針は？

**A** 基本的には、低学年のうちには将来の夢や大学への憧れから第一志望校決定を指導する一方、生徒の学力を上げようと、その時点の学力より上の大学を勧める。

また、少ない候補から安易に志望校を決めている生徒に対しては、視野を広げるための指導を行う。とはいえ教員もあらゆる大学に精通しているわけではなく、また評価がわからない大学には不安が伴うため、自校からの進学実績がある大学を勧めることが多いようだ。

多い。指定校推薦の安易な利用を防ぐため、推薦枠の開示期間を限定する高校もある。なおここ数年は、生徒も徐々に一般入試を希望するようになってきているというデータもある一方で、入試における多面的・総合的評価については肯定的という調査結果もある（左の図表）。

## Q 模試は進路指導でどう使われている？

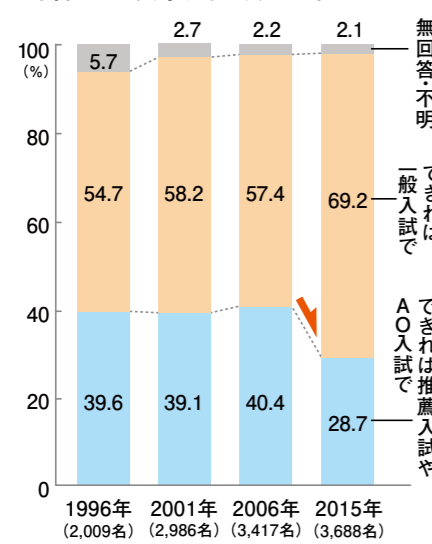
**A** 模試は大学進学者のいるほとんどの高校では志望校との距離を測るための目安として使用されている。進学を希望する高校生の数は、約50万人前後だが、数社の模試のうち、なかでも進研模試は40万人以上が受験する模試も多いため、統計的な信頼度が高いと言

## 進路指導の流れと模試の関係 ～2016年度進研模試（ベネッセ・駿台模試）の例

3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月			
●進路ガイダンス	1/21(土) 総合学力テスト・1月 1年間の学習成果を測定し、春休みの目標を設定 国語/数学/英語 受験者数:48.6万人(2015年度)	●三者面談	●三者面談	●三者面談	10/29(土) 総合学力テスト・11月 1年後後半時点の学力を測定、新たな課題を発見 国語/数学/英語 受験者数:49.1万人(2015年度)	●進路調査	●文理解析 ●学問研究 ●文理選択	●オープンキャンパス ●夏期補習	7/2(土) 総合学力テスト・7月 「全国」を意識させ、高校生としての学習習慣を定着させる 国語/数学/英語 受験者数:48.5万人(2015年度)	●文理選択 ●学問研究 ●進路講演会	●職業研究 ●保護者会	●オリエンテーション ●進路調査	1年生	
2/11(土) センター試験早期対策模試・2月 本番1年前に、センター試験を体感 国語/数学①②/英語(筆記・リスニング)/地歴・公民/理科①② 受験者数:23.1万人(2015年度)	●入試ガイダンス	1/21(土) 総合学力記述模試・1月 受験学年に向けて、2年間の学習成果を測定 国語/数学/英語 /地歴・公民/理科①② 受験者数:44.3万人(2015年度)	●三者面談	●進路調査	10/29(土) 総合学力テスト・11月 5教科の総合力を測定し、新たな課題を発見 国語/数学/英語 /地歴・公民/理科①② 受験者数:49.2万人(2015年度)	●科目選択	●進路ガイダンス	7/2(土) 総合学力テスト・7月 漠然とした憧れを、志望校という「目標」に変える 国語/数学/英語 受験者数:48.6万人(2015年度)	●大学研究 ●進路講演会	●学部・学科研究 ●保護者会 ●大学調べ	●オリエンテーション ●進路調査	2年生		
11/5(土) 第3回ベネッセ・駿台マーク模試 センター試験に向けたラストスパートの指導に活用 国語/数学①②/英語(筆記・リスニング)/地歴・公民/理科①② 受験者数:30.5万人(2015年度)	●冬期補習	11/5(土) 第3回ベネッセ・駿台マーク模試 センター試験に向けたラストスパートの指導に活用 国語/数学①②/英語(筆記・リスニング)/地歴・公民/理科①② 受験者数:30.5万人(2015年度)	●冬期補習	10/15(土)、16(日) 第2回ベネッセ・駿台記述模試 志望校合格に必要な記述力の測定と対策に活用 国語/数学/英語 /地歴・公民/理科①② 受験者数:35.0万人(2015年度)	●センター試験出願	9/17(土) 第1回ベネッセ・駿台マーク模試 高精度の合格可能性判定で、志望校の「絞り込み」をする 国語/数学①②/英語(筆記・リスニング)/地歴・公民/理科①② 受験者数:42.4万人(2015年度)	●夏期補習	7/2(土)、3(日) 総合学力記述模試・7月 志望校選択と、秋以降の受験指導に役立つ 国語/数学/英語 /地歴・公民/理科①② 受験者数:38.1万人(2015年度)	●志望校検討会議	6/4(土) 総合学力マーク模試・6月 本格的なセンター試験対策と、夏休みに向けた課題発見 国語/数学①②/英語(筆記・リスニング)/地歴・公民/理科①② 受験者数:44.8万人(2016年度)	●保護者会	4/23(土)、24(日) 総合学力記述模試・4月 受験学年スタート時の学力を測定し、課題を発見 国語/数学/英語 /地歴・公民/理科①② 受験者数:14.5万人(2016年度)	●進路調査	3年生・卒業生

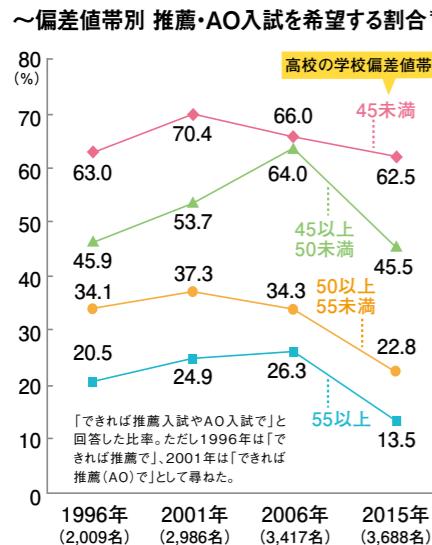
\*日付は統一実施日です。受験者数は2016年7月26日現在の情報です。進路行事は目安です。内容や実施月は学校により異なります。

## 一般入試を希望する生徒が増加



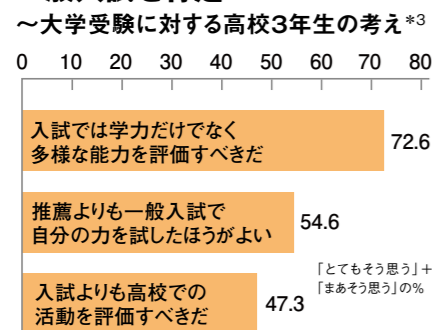
\*高校生(大学進学希望者)の回答

## 全偏差値帯で推薦・AO入試希望者が減少



\*高校生(大学進学希望者)の回答

## 生徒は多面的・総合的評価、一般入試を肯定



\*1、2ともに ベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査」(2015年6～7月実施)より  
\*3 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「高校生活と進路に関する調査」(2015年3～4月実施)より

# 進路指導の？に答えます

平均点が一定範囲に収まるように作問されているため、実施月が異なるテストの点数を比べることにより、生徒の実力のおよその推移を把握することができる。

**Q 模試で得られたデータはどう使われる？**

**A** 模試のデータはクラスや学年などの「集団」に対しては、高校の現状把握と指導戦略の立案に使われる。例えば、「学年全体で見ると英語が弱い」と、英語の補講を増やす。「全体的に志望校が安全志向になっているので、もっと挑戦するように促す」といった例が典型的だ。

個々の生徒に対しては、学習のPDCAサイクルを回すために使われる。得点や偏差値などの基本データに加え、「同じ志望校をめざす受験生の数」「1つ上の合格可能性判定を得るために必要な得点」「各科目の分野別の成績」といったデータが教員・生徒双方に提供される。教員はこれらを基に、必要な行動を各生徒に指導する。なお進研模試では、こうしたデータを「進研模試デジタルサービス」(以下、模試デジ)により、パソコンやスマートフォンで確認、管理できる。

## 学力観が変わる→テストが変わる→指導が変わる！「新しい学力観」に対応したテスト

問題と成績表のイメージ例(GPS-Academic)

次の文章を読み、下の(1)(2)の問いに答えよ。

2013年6月、日本の富士山が「富士山—信仰の対象と芸術の源泉 (Fujisan, sacred place and source of artistic inspiration)」として、世界文化遺産に登録されました。ただし、この登録には環境対策についての条件が付けられており、2016年2月までに、来訪者の利便性と安全を図りつつ、富士山の神聖さと美しさを維持するための方針を決めなければなりません。具体的には、来訪する人や車の数を制限したり、景観を損ねる施設を改善したり、新たな観光開発を制限したりしなければなりません。十分な対策がとられなければ、世界遺産の登録を抹消されてしまう可能性もあります。(後略)

(1) 世界各地の人々は、地元の自然遺産あるいは文化遺産が世界遺産として登録されると、一般に大喜びするが、それはなぜか。多様な観点から考え、その理由を簡潔に説明せよ。

(2) 富士山の世界遺産登録が抹消されたとしたら、世界遺産の目的に照らすと、国際社会において日本はどのような立場に追い込まれる可能性があるか。簡潔に説明せよ。

文部科学省は高大接続システム改革の一環として、各大学に多面的・総合的な評価の実施を求めている。この動きに合わせて高校でも、教科学力の測定を主とする従来型の模試に加え、汎用的な能力を測定するアセスメントの検討・導入が始まっている。

「GPS-Academic」は、ベネッセグループが開発した批判的思考、協働的思考、創造的思考の3つの思考スキルを、記述論述式を含む筆記試験とアンケートにより測定するアセスメントだ。各思考スキルが5段階で評価される。

主に大学と高校での活用が想定されている。高校生向けの成績表は進研模試と連動。思考スキルと教科学力との関連が示され、評価を教科学習や進路の検討に生かすよう促すテストだ。

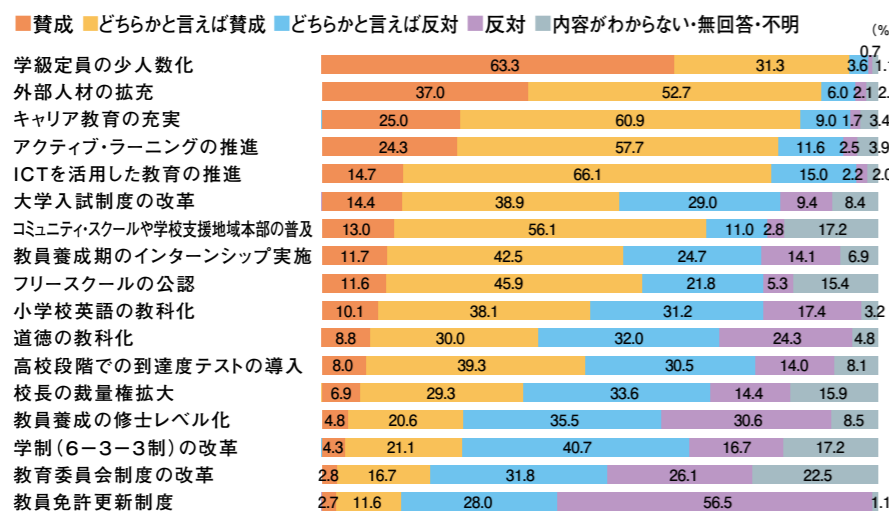
このような汎用的な能力は、高校はもちろん、



\*問題は、同アセスメントの趣旨を伝えるために作られたイメージであり、実際の出題例ではありません。成績表は開発中のものであり、変更されることがあります。

大学の学びでこそ、育成されるものであり、大学での学修成果の指標になりうる。このアセスメントを入学から卒業まで定期的に受検することで、大学はIRにつながる学修成果の指標となるデータを収集・蓄積することが可能だ。同時に、学生に対しては個人結果をもとにしたアドバイスも提供できる。

## キャリア教育の充実やアクティブ・ラーニングに8割以上が賛成



\*文部科学省国立大学改革推進補助金「大学連携による教員養成の高度化支援システムの構築—教員養成ルネッサンス・HATOプロジェクト—」特別プロジェクト教員の魅力プロジェクト(実施主体:愛知教育大学)「教員の仕事と意識に関する調査」(2015年8~9月実施)

**Q 高大接続改革で検討されたことは進路指導にどう生かされる？**

**A** 高校では今のところ従来の教科学力を重視する価値観が根強く、一部の先進的な高校を除いては、進路指導や学習指導が大きく変わるまでには至っていない。「大

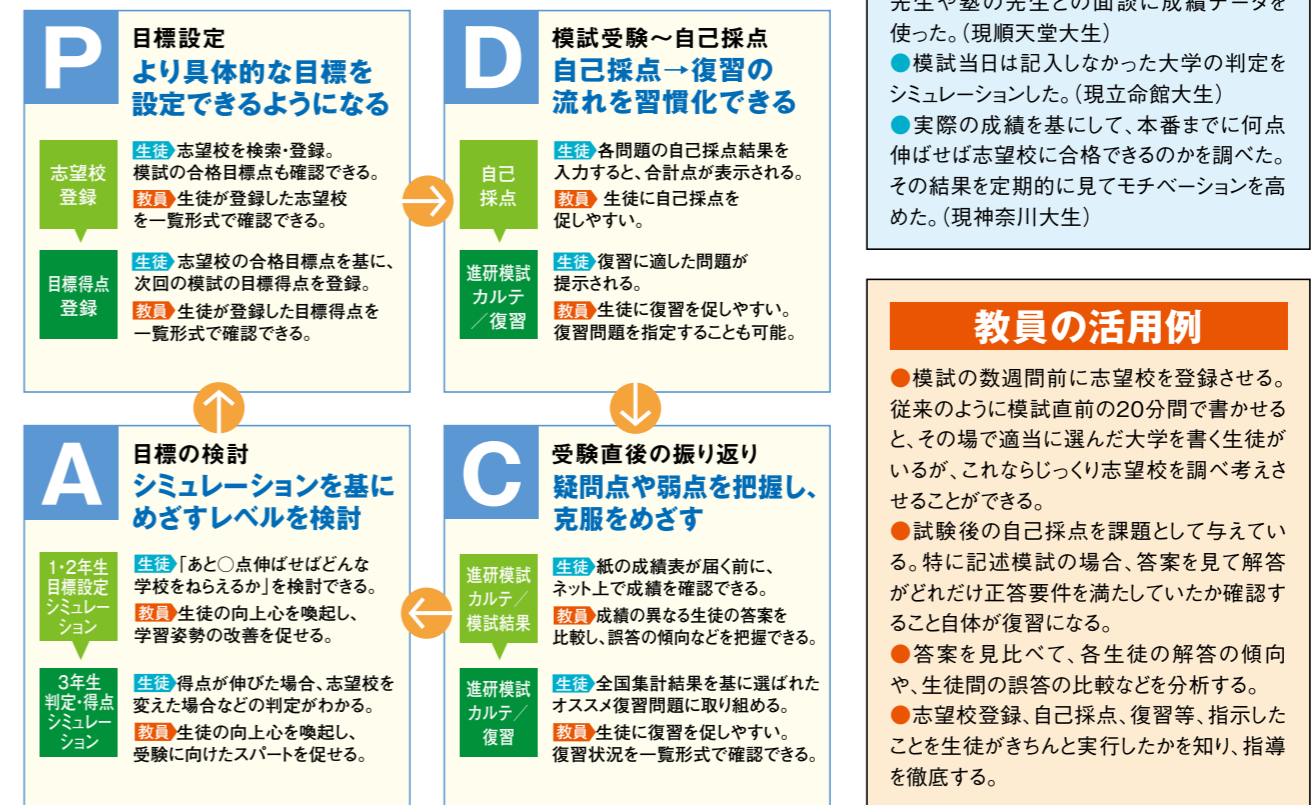
学の学びに対応するには、従来の学力だけでは不足だ」という切迫感を、大学は高校に与えられていないとも言えよう。とはいえず、左下に示した調査結果にある通り、例えば「キャリア教育の充実」や「アクティブ・ラーニング」の推進に賛成する教員の割合は8割を超えており、実際に取り組み始

めた高校も増えつつある。また、この半年~1年の間に、左上のコラムにあるような新学力観に基づくテストへの関心が急速に高まっており、今後、現場の指導方針や内容が大きく変わる可能性は十分にある。指導の転換が一気に進んだ場合、大学で高校で行われる以上の教育内容が用意され

ていなければ、その大学は進路先として選ばれないはずだ。大学側は、今後これまでも異なる学びを志した生徒が受験してくることを視野に入れて、その生徒のよさをきちんと測れる入試を課したり、大学での教育にうまく接続できるような初年次教育のデザインを変えたりする必要があるといえる。

## 進む進路指導のデジタル化 ~「模試デジ」を活用したPDCAサイクルの例

模試について教員が抱える最大の課題は、「結果を基に生徒を行動させること」だ。「模試デジ」は、この課題の解決に役立つツールとして開発された。解答・解説をデジタル化することにより、不正解の問題に関する手厚い解説や、理解を深めるための演習問題など、復習を促進する個別の情報提供が可能になった。目標設定、自己採点、教員向けのデータ集計などの機能もデジタルならではだ。



\*1 「Benesse マナビジョン 特派員アンケート」(2016年4月実施、対象:現役大学生)で寄せられた「高校時代の模試デジの活用例」回答より

\*模試デジを活用した進路指導のPDCAサイクルの事例は、「Between情報サイト」でも紹介しています。  
http://between.shinken-ad.co.jp/hs/2016/07/kiyota-hs.html